

肉用牛

販売価格堅調

ブランド化進む



9月の道総合畜産共進会肉用牛・馬部門で準最高位に輝いた武隈ブリーディングファーム(豊頃町)の出品牛。管内では素牛生産だけでなく肥育技術も向上している

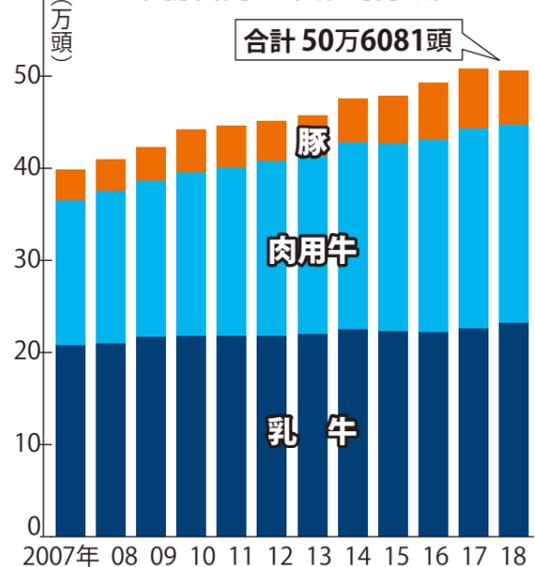


今年も高値水準が続いたホクレン十勝の肉牛市場

めている。食の安全・安心はもとより高品質な牛肉の生産が行われている。

2018年の十勝畜産統計によると、管内の肉用牛飼育戸数は前年比0.5%減の577戸。うち黒毛和種は1.3%減の471戸。繁殖、肥育農家が減る一方で一貫経営が伸びている。飼育頭数は11.1%増の4万6804頭。繁殖用雌牛はほぼ横ばい、肥育牛は10%、素(もと)牛は25%伸びた。

◆十勝管内の牛豚飼育頭数



十勝管内の肉用牛生産は、飼育戸数、飼育頭数ともに全道一となっている。「十勝和牛」「いけだ牛」「十勝若牛」など、地域や団体が肉用牛のブランド化を進めている。

管内ではホクレン十勝地区家畜市場(音更)と十勝中央家畜市場(幕別)が家畜の流通の拠点。ホクレン十勝市場では肥育素牛(もと)の個体販売は11月、黒毛和種の雌が71万円、去勢が80万円、去勢が80万円と一時に比べると一服感はあるが、依然として高い水準にある。乳用交雑種の雌は40万円、去勢は50万円と前年よりやや高く推移した。



帯広市内の緑ヶ丘公園で開かれた今年の十勝和牛感謝祭。約1500人が舌鼓を打った

牛の引き合いは強い。農畜産業振興機構(東京)がまとめた18年度の黒毛和種の子牛取引状況によると、ホクレン十勝市場が取引頭数で全国一になった。

今後の懸念材料の一つが10月に署名された日米貿易協定。現在38.5%の牛肉の関税が段階的に9%に削減される。乳用種では米国内産と価格面で競合する恐れがあり、国産牛肉の品質、安全・安心などをこれまで以上に消費者に伝えていくことが求められそうだ。今年5月には、北海道畜産公社十勝工場が道内では初めて食肉の米国輸出可能施設に認定されており、こうした環境も活用して畜産業の生産基盤強化や成長につなげる取り組みが必要となっている。

# 小麦

赤かび病防除と  
かび毒(DON)  
汚染低減に

かび毒(DON)汚染低減に

トップジンM水和剤

無人航空機による散布

トップジンMフル



ベフラン・トップジンMの混合剤

ベフトップジンフロアブル

優れた予防・保護効果  
葉枯症に

ベフラン液剤25

●ラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。



日本曹達株式会社

札幌営業所 〒060-0001 札幌市中央区北一条西4-1-2 TEL.(011) 241-5581